

# *Les Clefs d'Or Japan*

レ・クレドール ジャパン会報誌 “キー・ニュース”

## *Key News*



2020年12月  
第46号

発行： 住吉真矢子  
編集： 浜崎統

# 南東北視察会参加

文：田嶋益美

今回の招請は、富裕層旅行者の誘客促進を目的とした4泊5日のもので、富裕客層を扱う旅行会社3社、そしてレ・クレドール ジャパンからは2名が参加しました。

第一日目(福島県視察): 五色沼探勝路散策、裏磐梯レクリゾート・猫魔離宮、エビスサーキット(ドリフト体験)、花かんざし(旅館)、岳温泉泊

第二日目(福島県、宮城県視察): 大七酒造、斎理屋敷 屋外太鼓体験、碧水園・白石城、万風窯、遠刈田温泉泊

第三日目(宮城県視察): 瑞巖寺、円通院、ニッカウisky仙台工場宮城峡蒸溜所、天童温泉泊

第四日目(山形県視察): 居合神社(居合体験)、銀山温泉、相馬楼(舞娘舞踊)、本間美術館、スイデンテラス泊

第五日目: 羽黒山(山伏と山頂まで)、三神合祭殿、ワイナリー、鶴岡シルク、南岳寺、加茂水族館

南東北とは、東北地方6県の南部に位置する宮城、山形、福島3県の総称で、「自然」「温泉」「伝統工芸」「神社仏閣」、そして「温かい人々」が溢れていました。

最初に視察したのは、裏磐梯を代表する観光名所の五色沼。紅葉と神秘的湖沼群とのコントラストが美しく、沼から望む磐梯山



も、代表的景観の一つです。五色沼は、全長約3.6kmの自然探勝路に沿って磐梯山の噴火でできた湖沼群が点在し、水の色が緑、赤、青など様々な色彩を帯びることが名称の由来で、自然色とは思えない、神秘的沼にすっかり魅了されました。「大七酒造」は、創業1752年で、10代目社長自身の説明で特別な酒のテイスティングは過去味わったことのないプレミアムなものでした。「誰が何を語る」かがとても大切だと再認識しました。

国宝の瑞巖寺は伊達政宗が再建したことで有名ですが、隣接の円通院は、手入れの届いた庭園、石庭や美しい苔が素敵でした。紅葉初期でしたが、コロナ禍のため見物客は少なく、ゆったりと鑑賞できました。境内にある「雲外」でのランチは紅葉を愛でながら、旬の素材を用いた精進料理が頂けます。日本文化の武士道の神髄を伝え続けて





いる居合神社での居合道の体験でした。全国津々浦々にある試し斬り体験との違いは、居合の聖地でのことです。周辺にはラグジュアリーホテルはありませんが、富裕層客は、子供の帝王学教育のためにと連れてくるそうです。

次の銀山温泉は、NHK連続テレビ小説『おしん』の舞台となって一躍脚光を浴び、全国的に名が知られました。大正末期から昭和初期に建てられた洋風木造多層の旅館が銀山川の両岸に沿って軒を並べ、昔ながらの独特な景観を味わうことができます。その中に、隈研吾によりモダンにリニューアルされたひととき目立った宿がありました。

そして、ミシュラングリーンガイドで三ツ星認定の羽黒山は、石段数は2446段で、神社では日本一と言われています。頂上にある出羽三山神社には、月山、羽黒山、湯殿山の三神社が合祭された三神合祭参集殿があります。日本でも極めて珍しい合祭殿のパワースポットですので、しっかり

祈願してきました。車での参拝も可能ですが、パワースポットのご利益は徒歩が上とされているとのこと。

東北は広大なエリアであるがゆえ観光地が点在し、コンシェルジュとしてお勧めルートの提案が困難でしたが、視察体験を交え、この5日間で触れ合った方々の信頼性ある情報、そしてサポートを得ながら、魅力あるプランを提案できることを確信しました。

地域自治体の方々との情報交換会にて参加者は皆、「東北は、素材としてはとても素晴らしいものばかりだが、認知度の低さや、富裕層旅行者が求める特別感を得られるほどの良質な観光コンテンツが、現時点では不十分であるので、今後も伝統工芸、神社仏閣、飲食店等、多様な方々を巻き込んだ、ストーリーのあるコンテンツ作りに力を入れることに重きを置きたい」と、官民一体になって取り組んでいる力強い姿に、私たちコンシェルジュにとりましても、ゴールデンルートに留まらず、より多くの日本の良さを紹介する機会が増すことに胸が高鳴っています。そして、私たちコンシェルジュも誘客の一助になりたいと思っています。

この素晴らしい貴重な経験はまだまだ語り尽くせません。このような機会を得て知識を得ることができ、多くの方々と知り合えたことは、コンシェルジュとしての財産になるとともに、このような機会を与えてくださった方々に心から感謝します。

コロナ禍が終息し、一日も早く世界中の方々に日本の美しさを紹介できる日が訪れることを、心より願っています。



# ザ・リョカンコレクション合同勉強会開催

文：真柳あい

2020年11月9日に第5回レ・クレドールジャパン+ザ・リョカンコレクション合同勉強会がオーベルジュ・ド・リル トーキョーにて行われました。お客様の日本滞在のお手伝いをさせていただく中でお世話になる事の多い日本全国の旅館の方々とネットワークを築く為に、実際にお会いして意見交換をさせていただける又とない貴重な機会となりました。今回コロナウィルスの対策やGoToキャンペーン真っ只中と言うタイミングでの開催だった為、終始それぞれの実体験を元にした、タイムリーな意見交換が行われました。今までの当たり前が当たり前ではなくなった今、検温、消毒と言った事からお客様との距離の取り方、伝統文化体験

での変えざるを得ない対応についてなど、実際に行っている事を伺う事でより具体的に理解する事ができ、海外からお客様がお戻りになられた際の案内に直接役に立つ情報を得る事ができました。また、ホテルも以前とは雰囲気はかなり異なっている現状をお話しし、旅館の皆様と共有させていただきました。ホテルと旅館が共通して認識している事や旅館側、ホテル側だけが感じている事など意見交換の中で色々な発見がありました。第5回と言う事で、既に実際にお客様をご案内しあった経験があるメンバーも増え、ネットワークはさらに強まり、更に新しくメンバーになられた方とも新しいネットワークが構築できた会となりました。



# 多摩地域視察会参加

文：小嶋しのぶ

東京都商工会連合会主催の多摩地域日帰り観光モニターツアーが11月に行われ、レ・クレドール ジャパンと日本コンシェルジュ協会のメンバーが参加いたしました。

ツアー当日は穏やかな秋晴れで、道中バス車内より富士山を望むことができました。最初に訪れた高尾山薬王院では僧侶に境内をご案内いただきました。高尾山の歴史について学び、御護摩修行を見学の後、精進料理をいただく特別な体験をさせていただきました。煩惱を焼き清める智栄の浄火による神秘的で神聖な雰囲気の中で執り行われた御護摩修行を見学の際は、御詠歌や法螺と太鼓の音に心が清められたような気がいたしました。

午後には八王子市内の3つの施設を訪れました。まず訪れたのは八王子織物工業組合です。八王子は古くから養蚕や織物が盛んで「桑都」と称され、織物のまちとして発展してきたまちであるとのこと。伝統的工芸品の「多摩織」や歴史について学び、手織りの体験をいたしました。「手織りは機を動かすことに集中し心が安らぐ」と幅広い世代に人気があるとのこと。

次に訪れたのは見番です。八王子には多摩地域唯一の花街があり、現在18名の



芸者衆が活躍しています。今回は芸者衆の稽古場や手配を行う事務所がある見番にて舞の見学や、鼓と小太鼓の演奏など、花街について学ぶ貴重な体験をいたしました。ツアーの最終訪問場所である坂本呉服店はブティックのようなモダンな雰囲気、普段着の着物や帯、小物や雑貨などを扱い、「楽しむための着物」をテーマとした気軽に立ち寄ることができそうなお店でした。着物を身近なものとして考えてほしいという店主の想いが伝わってきました。

今回のツアーでは次のようなコロナ感染症防止対策が施され、参加者が安心して観光を楽しめるよう配慮がなされていました。

- ・参加人数は15名以内
  - ・大型バス内は2席に1名掛けで乗車
  - ・食事や観光体験会場では座席間隔を確保
  - ・バス乗車時や各施設入館時に手指消毒
- 都心より約1時間で訪れることのできる多摩地域の知られざる魅力を発見し、有意義な一日を過ごすことができました。今回は多摩地域の観光資源について学ぶと同時に、コロナ禍での観光の在り方について確認する良い機会であったと思います。今後もお客様が安心して観光をお楽しみいただけるよう心を尽くしてゆきたいと思います。



# 英語で茶道勉強会参加

文:端谷舞

海外のお客様からご要望が多い茶の湯の世界について、株式会社淡交社様のお力添えで、英語でご案内出来るよう学びの機会を設けていただきました。

講師の保科眞智子先生は、旧大名家保科家を生家に持ち、代々茶の湯をたしなむ環境のもと海外でのデモンストレーション経験も豊富な方です。

まず初めに、茶の湯のスピリッツである「和敬清寂」や各国で行った茶の湯についてのお話を伺い、その後お茶室で五感をフル活用する体験型のデモンストレーションを英語で拝見いたしました。

体験の場では、所作の正確さよりも心の交流と芸術鑑賞を目的としてのご説明を受け、ついつい所作に気を取られてしまいがちでしたが向き合い方が変わりました。芸術鑑賞においては、着物、花、器、掛け軸など亭主がその日のお客様の為だけに選び、もてなすその心使いは、私たちがコンシェルジュとしてお客様をお迎えするときにも通じることだと感じます。

また、心の交流とは、お茶室では目線が合わず会話もとても限定的で、お辞儀や



所作で返答をすることになりますので、その静かなメッセージのやり取りを楽しむことも茶の湯文化を楽しむ醍醐味の一つです。所作の意味合いや、亭主のおもてなしの心や返答の仕方など隅々まで英語で説明をしていただけますので茶の湯に初めて触れる方でも、体験したことがある方でも新しい発見と学びの多い体験となることと確信いたしました。日本の伝統文化である茶の湯の世界により深く触れるとても貴重な時間となりました。

